

【緑地の樹】

## エゴノキ

5月半ば、平和台住宅から能ヶ谷西緑地へ入っていく小径で、ふと地面を見ると、小さな白い花が一面に落ちていてなんともかわいらしく美しく見とれてしまいました。上を見上げると、可憐な白い花を下向きにたくさん咲かせていました。これがエゴノキの花でした。

エゴノキは身近な雑木林などに普通に生えているのですが、花の季節には自己主張しているように思えます。実はサクランボを小さくしたような形で、はじめは薄緑色で、9月ごろに茶色く熟します。この実がとてもくえぐいことが名前の由来と言われているそうです。

果実にはエゴサポニンと呼ばれる毒が含まれていて、昔はこの実をつぶして石鹼の代わりにしたり、川に流し、浮かんできた魚を捕まえたといわれます。

花が咲くころ、エゴノキの葉を見てみると、ところどころにくるくるとまかれた葉っぱが見つかります。これは、



プロフィール：エゴノキ科 エゴノキ属

緑地の南斜面への入り口や中央広場テーブル付近、ほかにも何本も生えています。

おとしぶみ(エゴツルクビオトシブミ)という1cmくらいの甲虫が卵を産みつけて、葉をくるくるまいて子どもを育てるゆりかごでした。小さな虫が、葉っぱの上を夢中で動き回り、卵を産み付けて一生懸命、少しずつ少しずつ巻き上げていくのです。ゆりかごの中の卵はひとつ。5日ほどで幼虫になり、ゆりかごを食べて大きくなってさなぎになり、4週間ほどでゆりかごに穴をあけておとしぶみの誕生です。おとしぶみのゆりかごは、食べられる家だったのです。

皆さんも、エゴノキにあるおとしぶみのゆりかごを探してみませんか？

(長谷部)